

県指定 無形民俗文化財

# 天下の奇祭 若葉祭 とうなごうじ祭り

豊川市立牛久保小学校長 波多野 慎次

馬場先の 千本松は  
西東の名所よ 西東の名所よ  
サー ゲーニモサー ヤンヨーガミモ ヤンヨー

500年以上前から伝わる牛久保の祭り、ヤンヨーガミがうたう。



路上に寝ころぶヤンヨーガミ

東日本と西日本の狭間に位置する三河周辺は、中世を通じ様々な内乱に巻き込まれ、時には戦場となった。戦国時代、牛久保の地で勢力を伸ばした土豪に牧野氏がある。今川氏・松平氏（後の徳川氏）などとの間にあって、牧野城・瀬木城・今橋城（後の吉田城）・牛久保城を築城しながら勢力を広げ、戦国の世を生き抜いた。

牧野氏は、やがて徳川氏の家臣となり、家康の関東移封に伴い大胡（群馬県）、長峰・長岡（新潟県）へと転封する。三州牛久保以来の「常在戦場」の気風は越後長岡藩にも受け継がれ、後に「米百俵」の逸話を生み出した。牛久保町内の神社には、牧野氏をはじめとする戦国武将の所領安堵の書状などが残されている。また、大聖寺の境内には、永禄3（1560）年の桶

狭間の戦いの際に今川義元の遺体を埋葬したとされる胴塚があり、長谷寺には武田信玄の軍師として名高い山本勘助の遺髪塚もある。

## 祭りの始まり

若葉祭は、牛久保の八幡社の例大祭で、4月7、8日に近い土曜日に宵祭りが、日曜日には本祭りが行われる。若葉祭という名の由来は、元禄14（1701）年に記された『牛窪密談記』による。牧野成時（古白）は、若宮殿（八幡社）に参詣した時、主君の今川氏から馬見塚（豊橋市の吉田城付近）に築城するよう命を受けた。成時はこれを当社の御恵みと喜び、以後毎年連歌の発句を詠んで若葉に結び、神前に供えて牧野家の武運長久を祈った。このこと



祭りの最後を飾る三ツ車の神事

◎ 上若組 五七の桐に千成瓢箪のダシ・大山車・囃子車・かくれ太鼓

◎ 西若組 五七の桐に紙の御幣のダシ・大山車・囃子車・かくれ太鼓

◎ 神児組 扇に金の御幣のダシ・神児車・神児舞

◎ 笹若組 笹竜胆に金の御幣のダシ・笹踊りとヤンヨーガミ

ダシは、神様の依り代で、どの組でも大切に扱われる。重さは、およそ35キログラム、長さは4メートルある。祭りの神事と芸能は、八幡社及び獅子頭の送迎・神輿渡御が行われる八幡社と天王社の往復道中などで披露される。

## 笹踊りとヤンヨーガミ

笹若組からは、金襴の服に裁着袴を着た大太鼓一人と小太鼓二人からなる笹踊りと、この踊りの囃子方である30



笹踊り

人ほどのヤンヨーガミが加わり、行列の最後尾につく。ヤンヨーガミは、「サー ゲーニモサー ヤンヨーガミモ ヤンヨー」と囃し、路上に寝ころぶ。寝ころんだら、仲間から手を指し出されるまでは、たとえ雨が降っていても起き上がってはならない。

## かくれ太鼓

八幡社鳥居前には上若組と西若組の大山車が控え、還御の行列が近づいてくると、「かくれ太鼓」と呼ばれる稚児舞の迎え打ちが始まる。

この舞いは、唐子（中国風）のような衣装を着た小中学生が、笛や小太鼓に合わせて首を振りながら踊るもので、中でも欄干から体を半分以上乗し出す動作は圧巻である。初めて見る人の中には、稚児をからくり人形と見間違えてしまう人もいる。

## 三ツ車

2日間の祭りの中で、最も盛り上がるのが、本祭りの還御の行列が八幡社に到着した後に行われる三ツ車の神事である。

午後7時頃に行列の先頭が八幡社に到着し、最後尾のヤンヨーガミが八幡社の鳥居をくぐると、年番の青年正副



大山車の上で演じられるかくれ太鼓

## 祭りを学ぶ子ども

牛久保小学校では、「みつがしわ学習」（総合的な学習の時間）や生活科で、地域のことや学校の歴史などを学んでいる。

5年生は、若葉祭について調べ、八幡社氏子のみなさんの指導を受けながら、学習発表会で笹踊りやヤンヨーガミの踊りを披露している。平成23（2011）年からは、若葉祭にも参加している。

こうした取組が評価され、本年度、愛知県教育委員会のあいち文化遺産保存活用推進事業「伝統文化出張講座」に選ばれた。



【若葉祭】豊川市牛久保町八幡社 毎年4月7日、8日に近い土曜日、日曜日に開催